

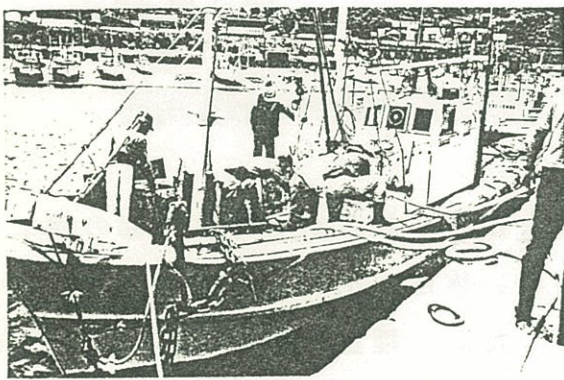
61年 8月 1日
 第 2 号
 鳥 取 県
 栽培漁業協会

ヒラメ資源の回復を

桁引網が6月1日より解禁になりましたが、ヒラメの漁獲は各漁協ともよくないようです。これは、産卵親魚の減少（右のグラフ）が昨年までつづいていることが影響していると思われます。

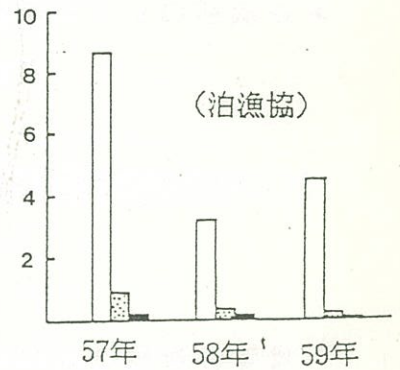
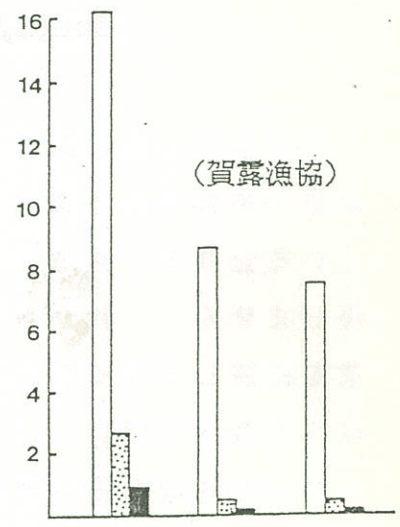
しかし、今年は海況要因によるものか、ここ数年に比べて多めの天然稚魚が順調に成育しているようです。また、6～7月には県中・東部で漁業者も参加し、ヒラメ種苗放流が無事おわりました。

さて、このヒラメ稚魚をどのように



放流種苗積み込み作業風景

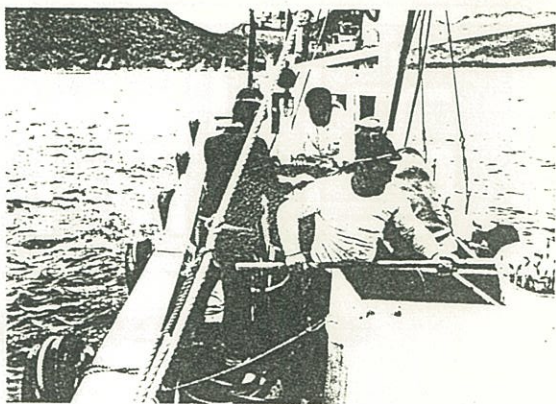
(万尾)



□ 1才 ▤ 2才 ■ 3才以上

桁曳網による5年令別水揚げ尾数

管理していけば漁獲につながってくるのか、皆さんもよくご存じの
はずです。行政等に頼った他力本
願ではなく、県内漁業者の一体と
なった真剣な取組みに期待せず
はられません。

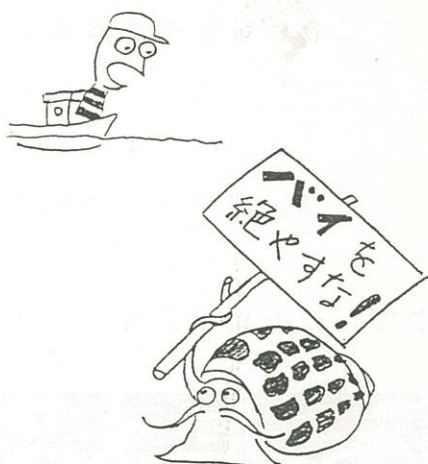


放流風景

バイ漁獲状況

昨年放流した標識付親貝が、美保湾でかなり再捕されました。放流貝が再捕される率が高いということは、全体のバイが減少してきている証拠といえるでしょう。資源は極端に減少するとなかなか回復しません。これからも、バイ漁業を継続してゆくためにも漁業者自らが現況を把握し、自主性を持って計画的な漁獲を進めましょう。

*放流前のヒトデ駆除は
徹底的に！*



クルマエビ種苗

第1回配布間近

”我等の資源は我等の手で！”という意欲から弓北漁協の親エビ提供も今年で3年目となりました。休日の出漁ご苦労様でした。種苗生産は6月中旬に開始しました。種苗の本年度第1回配布は8月上旬の予定です。

配布直後の稚エビは自分の身を守るための潜砂能力等に乏しく、

直接放流すると他魚種の餌となってしまう。それらの能力が身につくまでは、囲い網等を使用して中間育成を行います。中間育成の結果によって、稚エビの運命は大きくかわってしまいます。



積極的かつ丁寧な管理を心掛け、効率的な放流を行いましょう。 * 囲い網付設風景(60年・赤碕)

なぎさ音

今日も社会科見学の小学生がやってきた。まぶしく輝いている子供達の前で漁業と港について触合いの場を持ちながら説明して30余年。

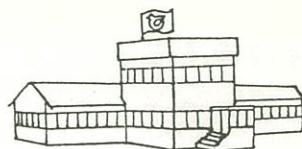
その間、漁業生産も躍進してきたが、工業の発展に伴う埋立、干拓および各種排水の影響で不振に陥っていた日本の漁業の振興策として、昭和37年ごろから栽培漁業が取り上げられてきた。(中略)。今後の沿岸漁業の振興策は、海の豊かな生産力を利用し、魚を積極的に育てながら漁獲する栽培漁業において他になく、鳥取県栽培漁業協会の飛躍を祈らずにはいられない。

子供達への説明は苦手であり、これからの漁業を担ってくれるであろう子供達に、別れの手を振りながら、理解してくれたのだろうかと思う昨今である。

漁業情報サービスセンター

小杉 武

センター情報



◆種苗放流状況

ヒラメ種苗放流実績

放流場所	平均サイズ	尾数(尾)	放流月日
石 脇	3.6~6.4cm	464,000	6・12 , 7・5
気 高	3.8~5.6cm	810,000	6・23 , 7・5
賀 露	3.7~4.2cm	459,000	6・27
由 良	5.1~6.9cm	356,000	7・8 , 7・22
合 計		2,089,000	

放流したヒラメの1部に表側の白色異常、裏側に黒色異常が含まれていますので、発見した人は最寄の漁協まで連絡をお願いします。

◆種苗生産状況

- ヒラメ： 8~14cm 約 92000尾 飼育中。
アワビ： 平均殻長 約15mm 約25万個飼育中。
バイ： 平均殻長 約 2mm 稚貝およびふ化幼生飼育中。
クルマヒ： P 30飼育中。配布予定数 約150万尾。

*オニオコゼ産卵・種苗生産試験中。

編集部からのお知らせ

御意見をお寄せ下さい。

投稿先 〒 689-06 鳥取県東伯郡泊村石脇

TEL 0858-34-3321・3322

鳥取県栽培漁業協会 さいばいだより 編集部。